国立国会図書館 調査及び立法考査局

Research and Legislative Reference Bureau
National Diet Library

論題 Title	研究者の視点に立って―京都大学学術研究支援室（KURA）における URA の取組―
他言語論題 Title in other language	How Researchers See It: Initiatives at the Kyoto University Research Administration
著者 / 所属 Author(s)	天野　絵里子（AMANO Eriko）／京都大学学術研究支援室リサーチ・アドミニストレーター
書名 Title of Book	「科学技術立国」を支えるこれからの研究者育成：科学技術に関する調査プロジェクト報告書（Fostering Future Researchers in Support of the Science-and-Technology-Oriented-Nation Concept）
シリーズ Series	調査資料 2019-4（Research Materials 2019-4）
編集 Editor	国立国会図書館 調査及び立法考査局
発行 Publisher	国立国会図書館
刊行日 Issue Date	2020-02-28
ページ Pages	—
ISBN	978-4-87582-854-9
本文の言語 Language	日本語（Japanese）
摘要 Abstract	—

＊ この記事は、調査及び立法考査局内において、国政審議に係る有用性、記述の中立性、客観性及び正確性、論旨の明晰（めいせき）性等の観点からの審査を経たものです。

＊ 本文中の意見にわたる部分は、筆者の個人的見解です。

国立国会図書館
National Diet Library, Japan

科学技術に関する調査プロジェクト2019シンポジウム
「科学技術立国」を支えるこれからの研究者育成
2019年9月10日（火）
国立国会図書館

研究者の視点に立って
京都大学学術研究支援室（KURA）における URAの取組

京都大学学術研究支援室（KURA）

天野絵里子

京都大学

KYOTO UNIVERSITY

KURA

スライド 1

目次

1. URAについて
   1-1. 日本のURA
   1-2. 京都大学学術研究支援室（KURA）
2. KURAにおける研究支援活動を通じた研究者育成
   2-1.学内ファンドプログラム
   2-2.スキルと情報の提供
   2-3. 研究成果の発信

KYOTO UNIVERSITY

スライド 2

1-1. 日本のURA

URA: University Research Administrator

定義

大学等において、研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果の活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材

設立経緯

RU11による提言

- 2010年「国家の成長戦略として大学の研究・人材育成基盤の抜本的強化を」・・・など

文科省補助事業

- 2011～2015年：リサーチアドミニストレーター（URA）を育成・確保するシステムの整備事業
- 2013～2022年：研究大学強化促進事業

KYOTO UNIVERSITY

スライド 3

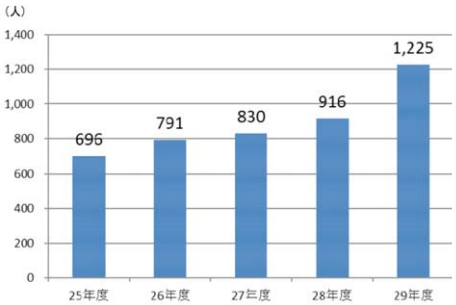
日本のURAの現状

平成29年度調査

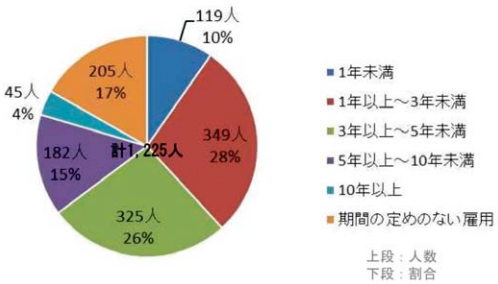
※ 平成29年度調査より「産学連携コーディネーター」を「URA」に含めて集計

配置機関数：146機関（H28より44増）

配置人数



「URAとして配置」と整理する者の雇用期間別人数



文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課 大学技術移転推進室「平成29年度 大学等における産学連携等実施状況について」平成31年2月27日

KYOTO UNIVERSITY

スライド 4

多岐に渡るURAの仕事

従事者の多い業務

研究戦略推進支援業務	プレアワード業務	ポストアワード業務	関連専門業務
政策情報等の調査分析	研究プロジェクト企画立案支援	研究プロジェクト実施のための対外折衝・調整	教育プロジェクト支援
			国際連携支援
	外部資金情報収集	プロジェクトの進捗管理	産学連携支援
研究力の調査分析			知財関連
	研究プロジェクト企画のための内部折衝活動	プロジェクトの予算管理	研究機関としての発信力強化推進
	研究プロジェクト企画のための対外折衝・調整	プロジェクト評価対応関連	研究広報関連
研究戦略策定			イベント開催関連
	申請資料作成支援	報告書作成	安全管理関連
			倫理・コンプライアンス関連

スライド 5

国内外のURAのネットワーク

- National Council of University Research Administrators (NCURA) 1959-
- Society of Research Administrators International (SRA)
- Australasian Research Management Society (ARMS)
- Association of Research Managers and Administrators (ARMA)
- Canadian Association of Research Administrators
- Danish Association of Research Managers and Administrators
- European Association of Research Managers and Administrators (EARMA)
- Southern African Research and Innovation Management Association
- International Network of Research Management Societies

- RA協議会（Research Manager and Administrator Network Japan）2015-

KYOTO UNIVERSITY

スライド 6

URAに関する新聞報道

「研究支えるURAって？　事務作業の専門家たち　国立大法人化10年」（朝日新聞 京都、2014年1月31日）

↓

「研究力アップ、請負人は「URA」　大学「第三の職種」が存在感」（朝日新聞、2019年7月22日）

研究資金の調達や管理、知的財産の取り扱い、産学官連携の推進や研究成果の社会への発信など業務内容は多岐にわたり、大学全体の研究戦略の策定にも関与する。

「社説　日本の科学研究　支援人材の活用で低迷打開を」（読売新聞、2019年8月12日）

KYOTO UNIVERSITY

スライド７

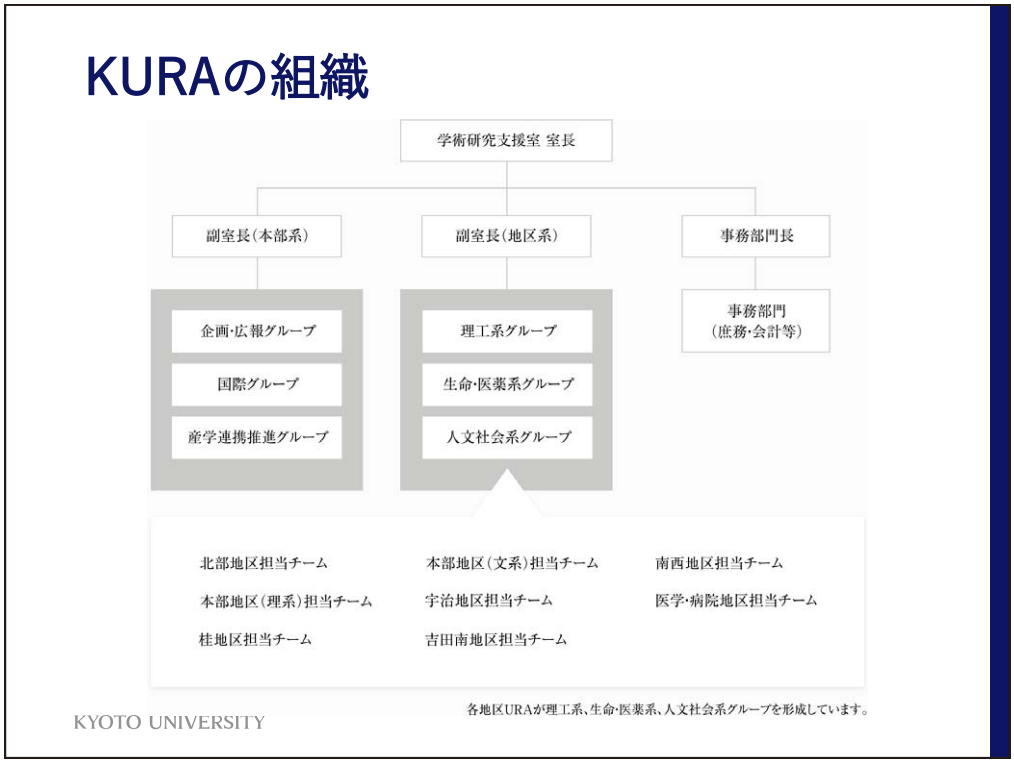
1-2. 京都大学学術研究支援室（KURA）

京都大学の卓越した知の創造活動を研究者の視点に立って
学問・社会を発展させる力に変える

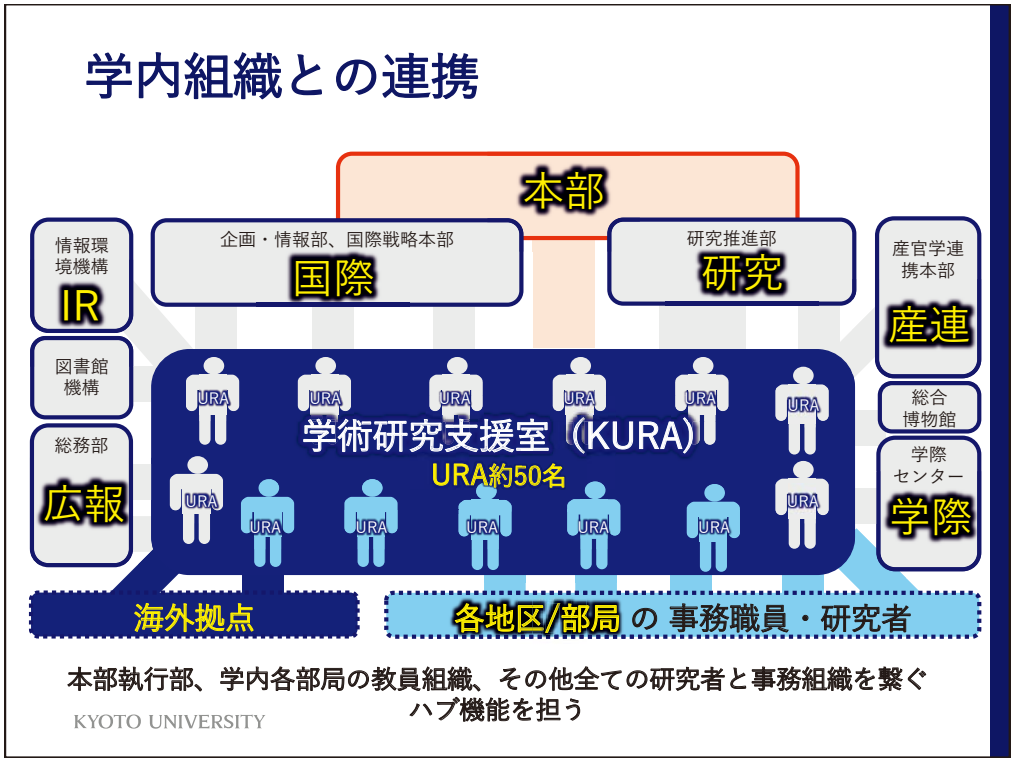
紹介動画（約8分）

KYOTO UNIVERSITY

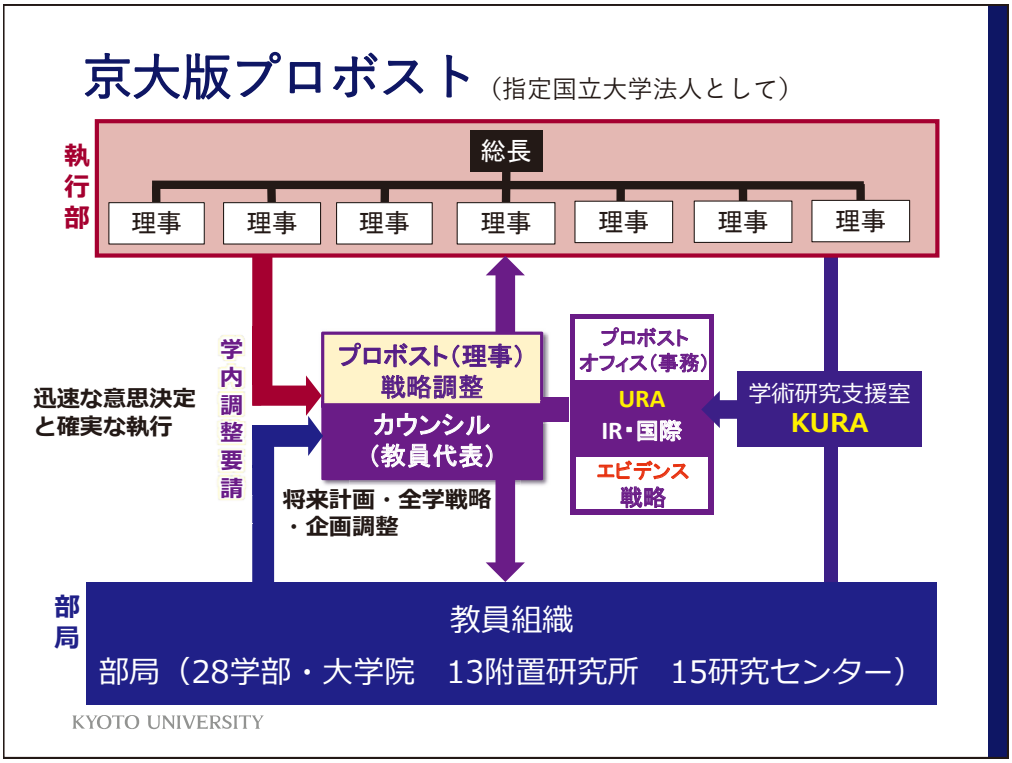
スライド８



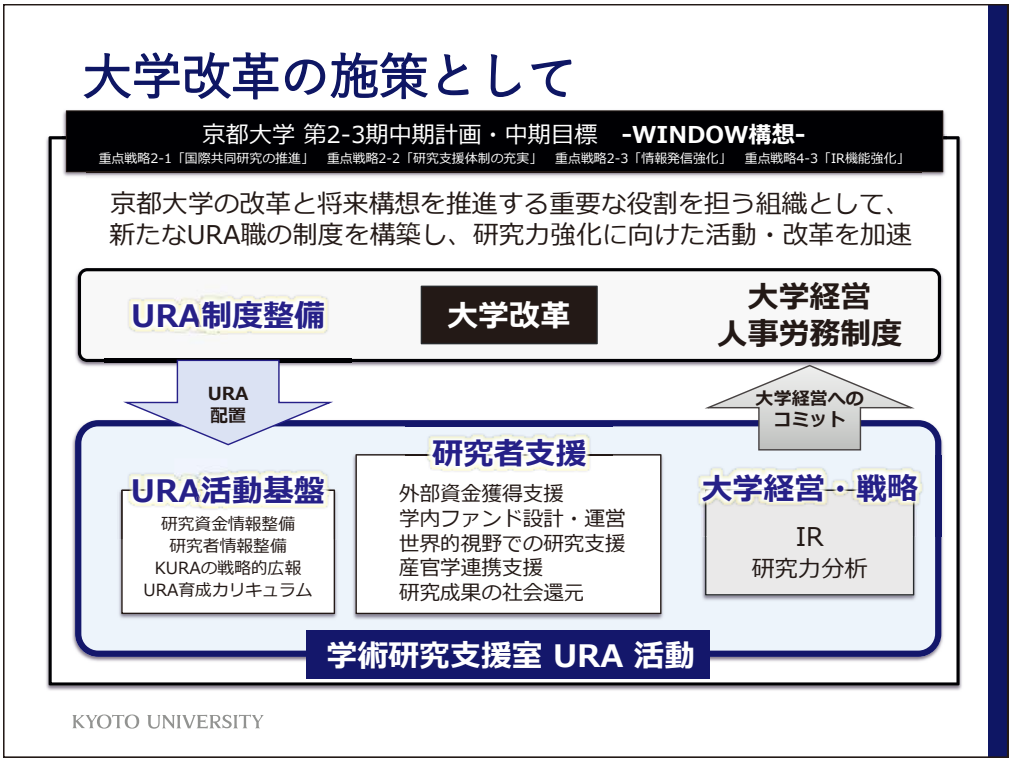
スライド 9



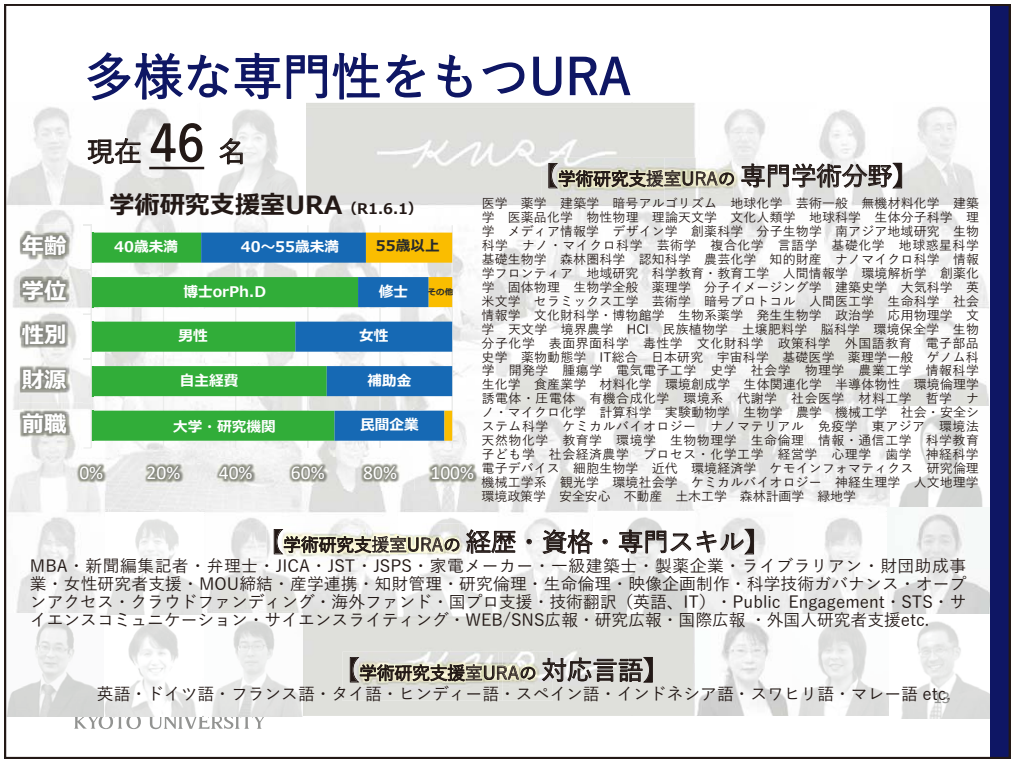
スライド 10



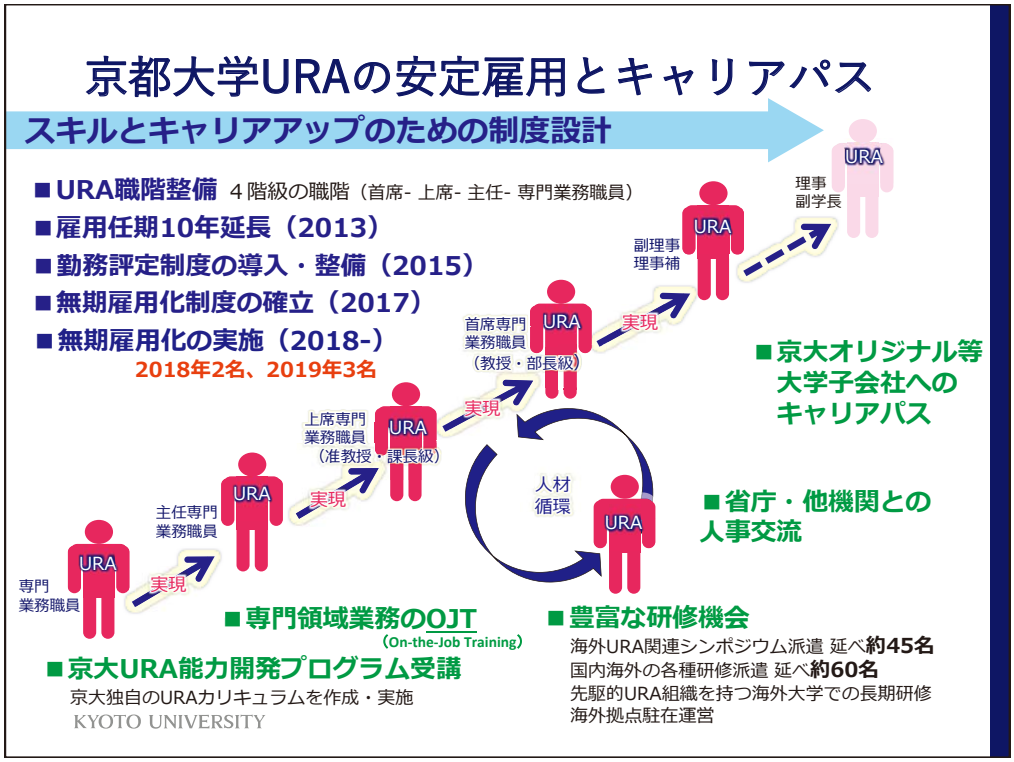
スライド 11



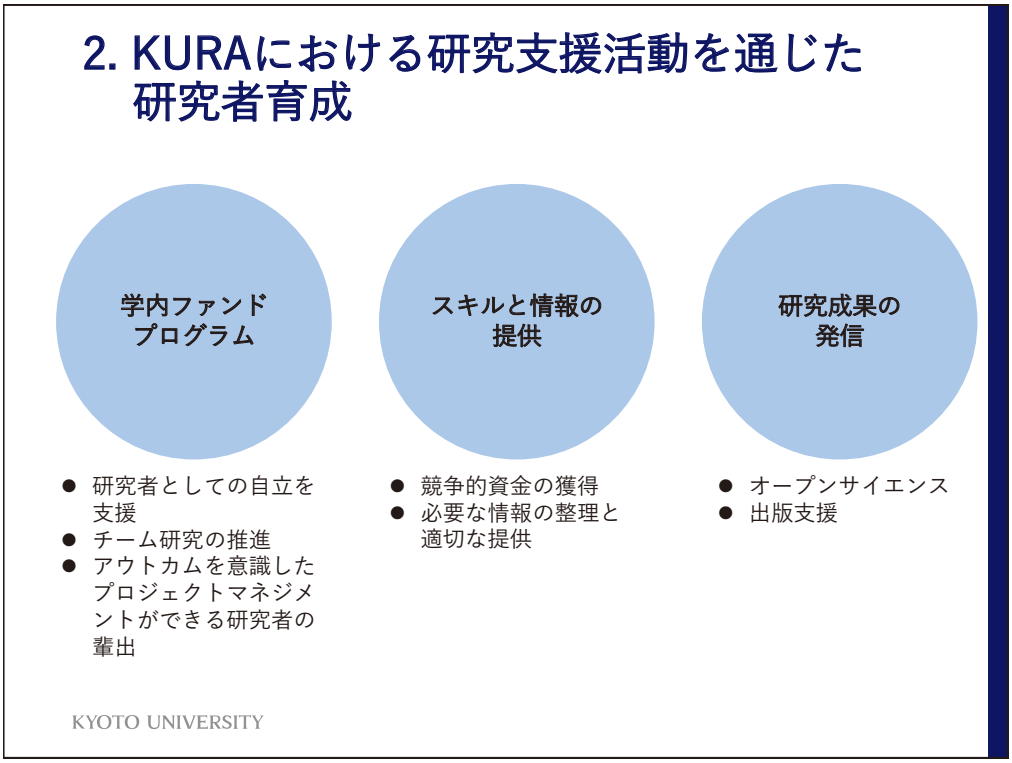
スライド 12



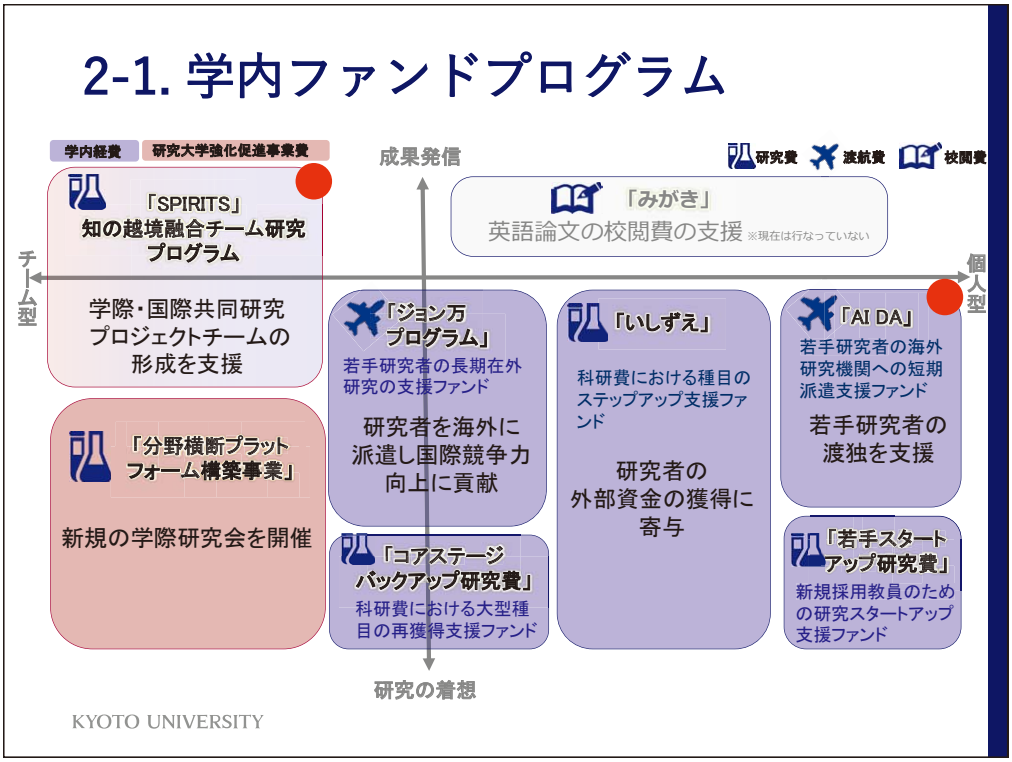
スライド 13



スライド 14



スライド 15



スライド 16

若手研究者の自立を支援

京都大学・DAADパートナーシップ・プログラム（間：AI DA）

ドイツ学術交流会（DAAD）との協定に基づく、若手研究者をドイツに派遣するプログラム

SDGs達成に資するような未来につながる国際共同研究ネットワークを構築することを目的とする。

支援額：1件あたり上限100万円（旅費、学会・シンポジウム参加登録費等）

派遣者：博士課程学位取得中の大学院生、博士学位取得後5年以内の研究者

KYOTO UNIVERSITY

スライド 17

チーム研究の推進

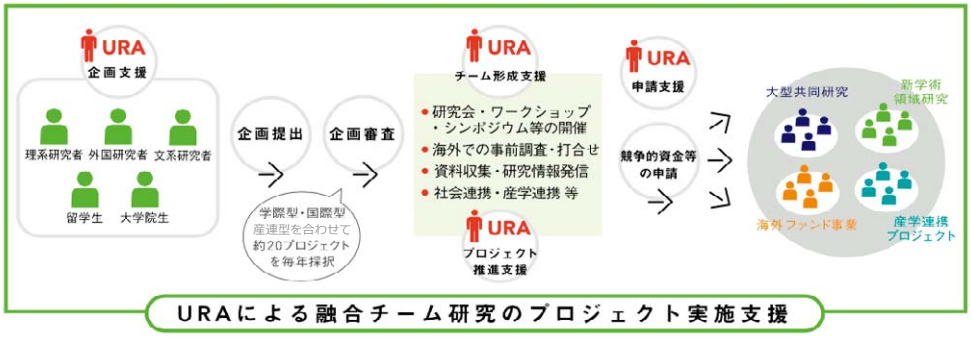
SPIRITS

「知の越境」融合チーム研究プログラム

国際化の推進、未踏領域・未科学への挑戦、イノベーションの創出を加速させるためにURAが設計・運営している、チーム研究を支援する学内ファンド

平成25-31年度
169 プロジェクト
を採択

- **国際型**　海外の研究組織・研究者との新たな国際共同研究チームの形成支援
- **学際型**　未踏領域の開拓に挑戦する異分野融合研究チームの形成支援
- **産官学共創型**　企業や自治体とともに社会価値創造を目指す研究チームの形成支援



KYOTO UNIVERSITY

スライド 18

2-2. スキルと情報の提供

スキルの提供

●“トランスファラブル”な技能（移転可能なスキル）
＝ 研究のコアな活動以外の活動に必要なスキル
●外部資金の獲得　など

情報の提供

●学内の分散した情報を組織化して提示

●適時に日本語でも、英語でも

KYOTO UNIVERSITY

スライド 19

競争的外部資金の獲得

「研究費獲得」に向けたの４つ のサポート

① **外部資金情報の収集・分析・配信・説明会開催**

- 研究者からの研究提案に最適なファンドを紹介・アドバイス（マッチング）

② **大型研究ファンドのチーミングサポート**

- 研究者個人の力では難しい大型ファンドの企画立案・調整をサポート

③ **申請書のブラッシュアップ**（科研費の教科書 etc.）

④ **ヒアリング審査サポート**（模擬ヒアリング開催・ヒアリング資料作成）

※ 大学院生・ポスドクの学振（日本学術振興会特別研究員制度）申請についても、説明会開催への協力や模擬ヒアリングでサポートしている

KYOTO UNIVERSITY

スライド 20

次世代研究者への研究支援情報の集約・機会の提供

https://ecr.research.kyoto-u.ac.jp

① 学内23組織との情報連携により、支援制度を集約・分類
② 次世代研究者100名以上のヒアリング（エビデンス）に基づき、研究活動全体を網羅する多面的なテーマを設定
③ 日英完全バイリンガルで情報を届けるなど、全てのキャリアパスの研究者への対応を目指す
④ テーマをよく知る専門家による読み物やニュースを掲載し、テーマについて考えるための材料を提供

他の次世代研究者の関心事や疑問を知り、自分の課題に気づく → テーマごとに学内23組織の支援制度が検索可能

KYOTO UNIVERSITY

スライド 21

2-3. 研究成果の発信

政策主導のオープンサイエンスの推進

公的研究資金を用いた研究成果（論文、生成された研究データ等）について、科学界はもとより産業界及び社会一般から広く容易なアクセス・利用を可能にし、知の創出に新たな道を開くとともに、効果的に科学技術研究を推進することでイノベーションの創出につなげることを目指した新たなサイエンスの進め方
（内閣府 国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会 2015）

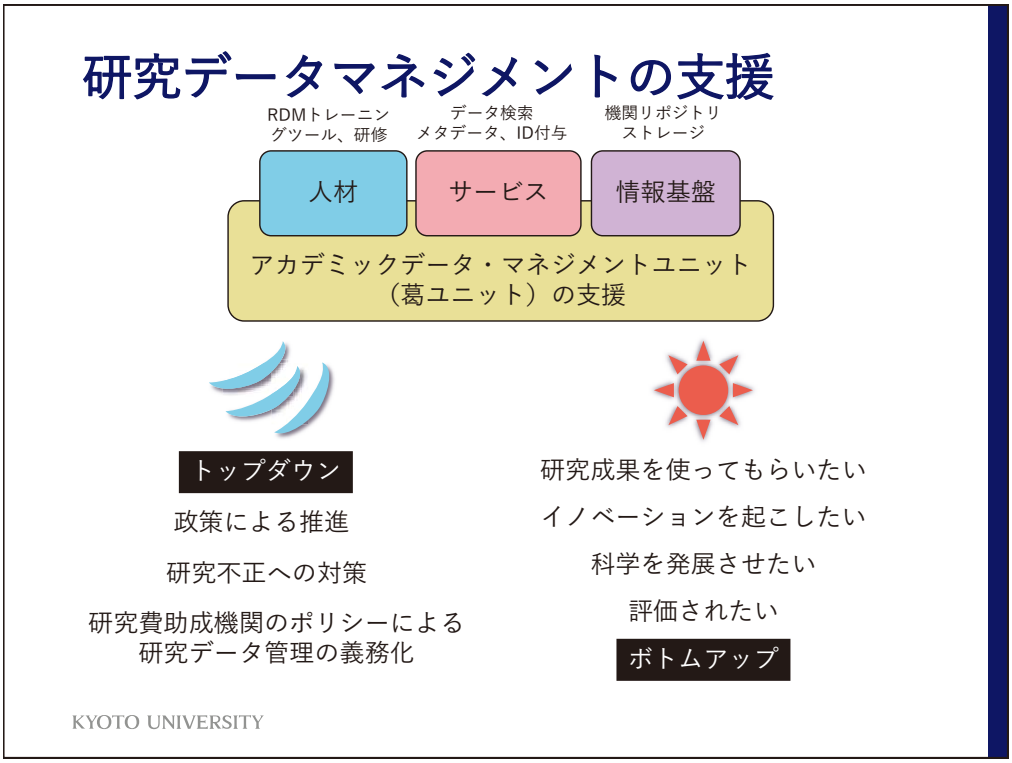
オープンサイエンスとは、
オープンアクセスと**研究データのオープン化**（オープンデータ）を含む概念である。
オープンイノベーションの重要な基盤としても注目されている。

- 研究者の所属機関、専門分野、国境を超えた新たな協働による知の創出を加速する
- 社会に対する研究プロセスの透明化や研究成果の幅広い活用が図られる
- 市民参画型のサイエンス（シチズンサイエンス）が拡大する

（第5期科学技術基本計画. 2016-2020）

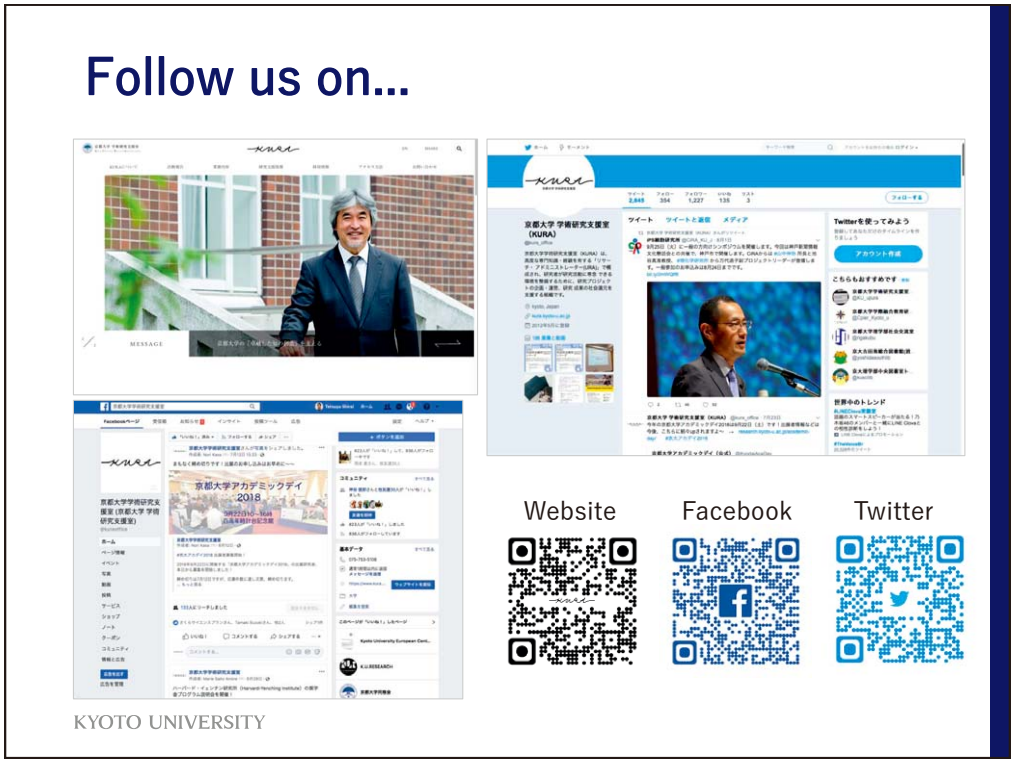
KYOTO UNIVERSITY

スライド 22



スライド 23

スライド 24



スライド 25

スライド 26

参考：京大新刊情報ポータル

研究成果と研究の知見を京都大学内外に広く伝え、社会と研究者をつなぐプラットフォームとして、京大の研究者が著者、編者として出版する書籍の情報を発信

https://pubs.research.kyoto-u.ac.jp

KYOTO UNIVERSITY

スライド 27

パネリスト報告 2

研究者の視点に立って
―京都大学学術研究支援室（KURA）における URA の取組―

京都大学学術研究支援室　リサーチ・アドミニストレーター
天野　絵里子

私は現在リサーチ・アドミニストレーターを務めていますが、もともとは図書館員ですので、図書館には馴染みがあります。ですが、今日はこの場所が国立国会図書館であるにもかかわらず図書館がテーマのお話をさせていただくわけではないということで、逆にアウェイな気分ですが、よろしくお願いいたします。私に与えられたテーマはユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター（URA）の紹介ですので（**スライド 2**）、まず、URA について一般的な話をした後、私たち京都大学学術研究支援室（KURA）の活動を通じて、京都大学がどのような研究者育成を行っているかについて、お話ししたいと思います。

URA は、University Research Administrator の略です（**スライド 3**）。一般的な定義は、大学等において、研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果の活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する専門職、ということになっています。2010 年の RU11 による提言「国家の成長戦略として大学の研究・人材育成基盤の抜本的強化を」の中で URA が構想され、文部科学省の二つの補助事業によって推進されてきました。

これまで、その補助事業に採択された機関を中心に、URA がたくさん雇用されてきています（**スライド 4**）。最新の平成 29（2017）年度の統計によれば、1,225 人が URA として働いています。ただし、任期ありなしの雇用期間別人数を見ると、任期なしの人がまだ 205 人（17%）ほどにとどまっており、雇用の継続性に関してはまだ課題のある職業だと言われています。

URA の仕事は、多岐にわたっています（**スライド 5**）。URA のメインの仕事は、研究資金を獲得するまでのプレアワード業務と、資金獲得後の研究活動のマネジメントなどを行うポストアワード業務だと説明されることがよくあります。そのほかにも、研究戦略推進支援、産学連携などの業務があります。

次に、国内外の URA のネットワークについて紹介します（**スライド 6**）。海外では Research Manager あるいは Research Administrator の活動はずっと以前から大学などで行われてきており、スライドにあるような専門職の団体が各地に幾つもあります。日本にはリサーチ・アドミニストレーター（RA）協議会があり、2019 年 9 月 3 日、4 日に電気通信大学で第 5 回年次大会が開催されたところです。2020 年 5 月には、スライドにある世界のリサーチ・アドミニストレーターのアソシエーションが一堂に集う大会（INORMS 2020）が広島で開催されます。

次に、URA に関する新聞報道をご紹介します（**スライド 7**）。2014 年の報道では URA を「事務作業の専門家」と伝えていて、正しく理解されていないなと思いましたが、最近 7 月の報道[1] では、研究力アップの頼れる人材ということで、教員でもない、事務職員でもない、第三の職種と報道されています。

(1)　「研究力アップ、請負人は「URA」　大学「第三の職種」が存在感」『朝日新聞』2019.7.22.

私たちKURAは、「京都大学の卓越した知の創造活動を研究者の視点に立って学問・社会を発展させる力に変える」ということをビジョンとして業務を遂行しています。最近、私たちのPR動画を作りましたので（**スライド8**）、興味のある方はご覧になってください。

これがKURAの組織図です（**スライド9**）。組織は、まず大きく本部系と地区系に分けられます。本部系には、全学の研究マネジメントに関わる企画・広報グループ、国際グループ、産学連携推進グループがあり、地区系には、理工系グループ、生命・医療系グループ、人文社会系グループがあります。地区系は実際には、京都大学のキャンパスの地区ごとに学部・学科を担当するチームに分かれ、研究者と密接に関わりながら研究マネジメントを行っています。全学の多様な分野の研究者をカバーするために一人が複数の地区やグループを兼担することも多く、私自身も企画・広報グループ、人文社会系グループ、吉田南地区担当チームに所属しています。

KURAは新しい組織ですので、学内の既存の組織との協力なしに業務を遂行することはできません（**スライド10**）。コミュニケーションの円滑化のため、それぞれの組織に窓口担当を置いており、私自身は附属図書館の窓口を担当しています。これらの図にあるようにURAは大学全体の研究マネジメントにしっかり関与しています（**スライド11、12**）。

現在、KURAには46名のURAがいます（**スライド13**）。約7割（30人強）が博士号取得者で、研究者から転職された方がほとんどです。専門分野も様々で、京都大学は地域研究などの特徴的な分野の研究も強いので、その分野のURAもおります。全国的には自然科学系のURAが多いのに比べて、京都大学では人文社会系のURAの数も充実しています。

また、京大の場合、URAを定着させるために学内でURAのキャリアパスを作り、こういった形で進めています。無期雇用化も進めています。また、研修も充実させています（**スライド14**）。

URAの全国的な労働市場に関して触れておくと、転職、つまり人材の流動が既にかなり始まっています。また、URAから研究者に戻る人も一部ですがありますが、このことが実は最も研究者の育成に貢献していると言えるかもしれません。

KURAによる研究支援活動を通じた研究者育成の取組として、学内ファンドプログラム、スキルと情報の提供、研究成果の発信についてご紹介します（**スライド15**）。学内ファンドプログラムでは（**スライド16**）、研究者のチームや個人に研究を進めていただくために、学内の予算を配分するさまざまなプログラムを、このように組み合わせて提供しています。その一つに、若手研究者にドイツへ短期で行っていただくというプログラムがあります。和辻哲郎の「間（あいだ）柄」の思想から「AI DA」と名付けられています（**スライド17**）。他のプログラムと比べて金額的には大きくありませんが、若手研究者が短期でもドイツに行くことによって、そこから国際共同研究を広げるなど、その次につなげてもらうプログラムとしてURAが企画・運営しています。

また、チーム研究を助成するプログラム「SPIRITS」があり、私が担当しています（**スライド18**）。これは、2年間、学際的研究や海外との共同研究など、チームで行う研究プロジェクトを支援するものです。SPIRITSの目的の一つは、研究リーダーの養成です。チーム研究を初めて行うような研究者を支援して、研究プロジェクトの発展につなげていくことを目指しているプログラムです。

次に、スキルと情報の提供についてです（**スライド19**）。少し前の時代でしたら研究室の先

輩からコアな研究活動以外のスキルも習得することができましたが、それが難しくなっていることが背景にあります。そこで、研究者向けのセミナーを開催したり、適切な情報を適時にキュレーションして提供するといったことを行っています。また、外部資金の獲得についても支援しています（**スライド 20**）。例えば、申請書の書き方に関するセミナーを実施したり、外部資金の種類によっては「ヒアリング審査」といった面接があるので、その予行演習を行ってアドバイスするようなこともしています。

KURA の取組をいろいろと紹介してきましたが、**スライド 21** は、本日一番ご説明したい取組です。つい最近、「京都大学からはじめる研究者の歩きかた」というウェブサイトをオープンしました。私たちの同僚が研究者 100 名以上にインタビューした結果、KURA 以外にも学内 23 組織が様々な研究支援サービスを行っているものの、それが若手研究者にほとんど伝わっていないということに気付きました。そして、私たち研究支援者と研究者との「かすがい」になるようなツールが必要だということで、このウェブサイトを開設しました。必要な情報を得られるだけでなく、関連するテーマに関する専門家のインタビュー記事も掲載されているなど、読み応えのあるウェブサイトですので、是非、ご覧になってみてください。

最後に、オープンサイエンスの推進、研究成果の発信に関する取組を紹介します（**スライド 22**）。オープンサイエンスは国全体の政策として進められており、研究データのオープン化をしなければならず、それは研究不正対策としても必要だと言われるのですが、トップダウンで言われても実行が難しいものです。それを**スライド 23** では、「北風と太陽」で表しています。北風のように、大学の執行部によるトップダウンの政策・施策でオープンサイエンス、オープンデータを進めていくこともできますが、私たちは、太陽のように研究者の根源的なモチベーションに働きかける形で、研究者間の情報流通をスムーズにしていくことを目指しています。そのために京都大学では、アカデミックデータ・マネジメントユニット（葛ユニット）という組織横断的な調査研究グループを作りました。その活動を KURA が支援しています。また、出版の支援も行っています（**スライド 24**）。

私たちの活動は、これまで紹介した以外にもたくさんあります。SNS やウェブサイトでいろいろ紹介していますので、興味のある方はご覧になってください（**スライド 25**）。また、2019 年 9 月 15 日（日）には、京都大学の研究者と市民が対話するイベント「京都大学アカデミックデイ」を開催します（**スライド 26**）。加えて、京都大学附属図書館と協力し、京大研究者の著書を紹介するポータルサイト「京大新刊情報ポータル」（**スライド 27**）も運営しています。